

ベトナム出身の
介護福祉士夫婦

ダオ・ヴァン・トゥオンさん(28)
チャン・ティ・フォンさん(29)

輝き しゆう 集人



トゥオンさん(左)とフォンさん
＝和歌山市で

6年前にベトナムから来日し、現在は夫婦で介護福祉士として働く。最初はお年寄りの和歌山弁が聞き取れずとまどった。「今では方言が癖になって、『和歌山の子やな』と言われる」と入なつっこい笑顔を見せる。

北部タインホア省出身

来日6年方言も板に

のトゥオンさんと、中部ゲアン省出身のフォンさんは、それぞれ母国の看護大学を卒業。在留資格「介護」の新設に先駆け、和歌山市の和歌山YMC A国際福祉専門学校が、A国際福祉専門学校が「天美苑」、フォンさんは海南市の特別養護老人ホーム「光苑ケアセンタ」で研修を受けながら、2年間学んだ。国家試験にそろうって一発合格し、

20年4月、それぞれの施設で正式に働き始めた。「おまん来て」「あかんで」「かまん、かまん」。学校で日本語を学んでも、お年寄りの方言はさっぱりだった。フォンさんは「いらん言葉言っても、「教えて」と地道に聞き返した。「ありがとう」はあまり使わんですね。今ではこちを家族のように思ってもらえたら」

言うようになりました」とトゥオンさんは笑う。そんな2人のひたむきな姿勢は、周囲にも伝わっているようだ。「それがつが回らなくなってきた利用者が、一生懸命『フォン』と言葉を出そうとしてくれた」とうれしそうに話すフォンさん。心温まるやり取りが、やりがいにつながっているという。

今年1月に和歌山市で結婚式を挙げ、市内のアパートで暮らし始めた。それぞれが夜勤に入る日もあり、異国での新婚生活は忙しいが、「近所の人々が食べ物分けてくれた」「和歌山の生活が好き」と2人の表情は明るい。「ここなら人が優しいし、子どもができて外国人だからといじめられる心配もなさそう。いつか家も買いたい」と日本での未来を描く。

【木村綾】